

電気通信大学 平成16年度シラバス

授業科目名	English E		
英文授業科目名	English E		
開講年度	2004年度	開講年次	2年次
開講学期	3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	1
科目区分	総合文化科目-言語文化科目-言語文化応用科目 I		
開講学科・専攻	情報通信工学科 知能機械工学科		
担当教官名	社本 雅信		
居室	東1-807		

公開E-Mail	授業関連Webページ
shamoto@bunka.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
読解力向上と表現力向上

【前もって履修しておくべき科目】
「なし」

【前もって履修しておくことが望ましい科目】

【教科書等】
1. 創造の道（金星堂、1,300円） 2. 5分間英語表現構文（南雲堂、700円）

【授業内容とその進め方】

上記教科書1を使い、次のことを行う。(ほぼ55分から60分間)

1. 数学・生物・化学・文学・歴史の多岐にわたる分野において、鋭い知性を発揮し、目覚ましい業績を残した科学思想家、ジェイコブ・プロノウスキーの著“ The Ascent of Man(人間の進化) ”の一部を取り上げ、英語の読解力の一層の向上を目指す。

「動力を求めて」においては、18世紀後半に起こった世界史上主要な三つの革命、産業革命、アメリカ独立戦争、

フランス革命は「力」の概念を大きく変え、自然はエネルギーを供給するものとして捉えられるようになって、政治権力は平民の手に落ちた、と彼は解説する。

「創造の道」においては、19世紀の自然淘汰による進化の理論と、20世紀に入ってから の生命の起源についての研究を扱っている。

毎回10人程度に訳読を担当してもらう。思考を重ね十分予習してくるよう。

上記教科書2を使って、次のことを行う。(ほぼ25分から30分間)

2. 「行く、来る」「出発する、到着する」「歩く」「旅行する」「見る」「聞く」

「怒る」「喜ぶ」「悲しむ」「食べる」「飲む」「借りる」「断る」などの基本的かつ日常的な表現

(40項目)をどのような英語の動詞で表現するかを練習する。

例えば、「飲む」では、「食後この薬を忘れずに飲みなさい。

(Don't forget to take this medicine after each meal.)」

「このチキンスープは熱くてぼくには飲めない。

(This chicken soup is so hot that I can't eat it.)」などの例が10題挙げられている。

教科書に挙げられている400題の例文をマスターすれば、相当自信がつくはずである。

後期は、将来英語を使ってのプレゼンテーションができるように、長めの英文を書くことに挑戦してもらうが、

前期はそのための準備段階と心得て、各自しっかり努力してほしい。

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

学期終了後の成績を100%としたとき、期末試験の占める比率は70から75%、平常点を25%から30%とする。

平常点には、発表の出来具合、授業に対する取り組み方、小テスト(3から4回程度)の成績、出席率が含まれる。

なお、小テストを欠席すればその分は零点になる。

【オフィスアワー：授業相談】

金曜日 4時半から 5時10分

電気通信大学 平成16年度シラバス

【学生へのメッセージ】

「ローマは一日にして成らず」。英語はピアノの練習と同様に、毎日最低20分でも英語に親しむようにしてほしい。

英々辞典を脇に置き、本格的な英語の習得に努めよ。

【その他】